

帝京大学

帝京大学では、多様な学習形態を提供して学習意欲を高めるために、一部の学部でeラーニングシステムを活用した教材提示、理解度把握、ディスカッションなど対面授業の補完と、教室授業中での個人学習を支援するセルフラーニング型授業を実施している。これらの授業を支援するため、ラーニングテクノロジー開発室を設置して対応しており、授業作りの相談助言、教材・小テスト作り、教室でのeラーニングシステムの操作・説明など、学生スタッフを積極的に活用している。

1. 実施規模

設置9学部の内、3学部で実施

※理工学部、医学部、文学部

※科目数：94科目（対面授業の補完）、3科目（セルフラーニング型授業）

※受講学生数（延べ）：9,575名（対面授業の補完）、442名（セルフラーニング型授業）

2. 授業での位置付け

対面授業の補完と教室授業中での個人学習を支援する。

- ① 対面授業の補完では、事前・事後学習用教材の提示、到達度確認テスト、学生によるレポートの相互参照とチェック、学生のディスカッションなどを実施している。
- ② 個人学習支援（セルフラーニング型授業）では、教室の授業時間中にeラーニングを利用して学生が個々のペースで学習する。教員は主として学生への個人指導を行っている。

3. 代表的な授業科目での活用状況

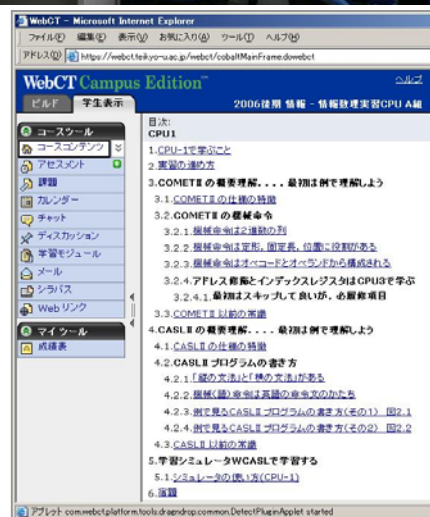
① 対面授業の補完

『情報基礎1』は、理工学部の1年次前期を対象とする授業で、学生は、HTML教材、ビデオ教材、自己評価のチェックシート、小テストなどにより、事前事後学習を行う。毎回授業の後にまとめの小テストを掲示して、次の授業までの間に満点を取るまで繰り返し学習を推奨している。また、授業時間外にグループ活動を義務付け、その活動結果をディスカッションサイトに掲載させている。

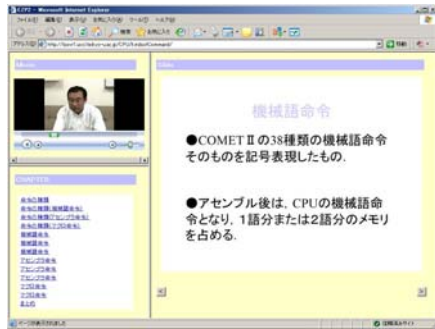


② セルフラーニング型授業

『情報数理実習』は、理工学部の2年次後期に3時限連続の演習授業6回として設定されている。教室では講義を行わず、学生は授業時間中にHTML教材、ビデオ講義教材、自己診断テスト、小テストにより自分のペースで学習を進める。但し、初回の授業では、目的意識や動機付けを徹底する。しかしながら、学習の進捗状況を見て、必要に応じて個別にミニ講義を行っている。また、専用のプログラム提出システムにより、学生に評価結果を迅速にフィードバックしている。



(セルフラーニング型授業のメニュー画面)



(ビデオ教材)



(学生への個別指導)

4. 大学の支援体制・支援内容

eラーニング支援を専門に行う組織としてラーニングテクノロジー開発室を設置し、学生スタッフ（LTA：Learning Technology Assistant）を積極的に活用した支援活動を行っている。

教員向けの支援としては、eラーニングを取り入れた授業設計、教育方法等について個々の教員に密着したコンサルテーションを行っており、その上で、手書き講義ノートのパワーポイントへの変換、教員が作成した小テストのシステム入力、小テスト問題の作成、HTML教材の作成・更新、授業録画と動画配信システムへの掲載などの支援を実施している。また、教室の授業でeラーニングシステムを活用する場合にはティーチングアシスタントとして学生スタッフを派遣している。

学生向けの支援としては、回答可能な質問についての回答、回答不能な場合での教員への電子メール連絡を行う他、操作方法などのヘルプデスクをネットワーク上に設けている。

以上、支援内容を掲げたが、eラーニングの実施にあたっては、とりわけ教員とのコンサルテーションが重要である。以下に、その具体例を掲げる。

- ① 『電気基礎実験』では、授業の問題点を検討したところ、レポート作成の段階で講義の重要性に気付くことが多いので、講義を後から視聴できるような工夫が必要となり、講義の録画と配信、セルフテスト機能、レポートチェックリスト機能を学生スタッフのサポートで開発した。
- ② 『スポーツ1』では、実際に授業を受講した学生を交えて検討した結果、eラーニングシステムにバレーの打ち方など技能の動画、応急処置方法の資料と動画を教材として掲載することになり、学生スタッフのサポートで実施した。



5. eラーニングの活用効果

学生の積極的な学びを引き出すことができる。例えば、授業時間外の学習課題を明示することで「予習しなさい」、「復習しなさい」といった指示だけでは何をしてもよいかわからない学生を適切に導くことができる。これにより、学習量の多い授業を実現するとともに、学生の学習に対する取組みの姿勢を高めることができる。

6. 今後の課題

理工学部を中心に始められたeラーニングの全学的な拡大を図っている。そのため、キャンパス間を結ぶ総合的な支援体制、キャンパス単位の支援体制の整備が課題となっている。

《問合せ先》

帝京大学 ラーニングテクノロジー開発室 Tel:028-627-7243 LT-Staff@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp